

府中小企業団体中央会 若手ら発足

新型コロナウイルス禍を乗り越える中小企業連携のモデル事業を立ち上げた



中小企業の連携で、コロナ禍の課題解決を目指す府中小企業団体中央会の助け合い隊のメンバー(後列)＝京都市下京区・京都経済センター

中小連携を「助け合い隊」

め、京都府中小企業団体中央会は23日、若手リーダーらによる「助け合い隊」を発足した。同業種や異業種間の連携を促し、事業創出や市場開拓をサポートする。

同日に京都経済センター(京都市下京区)で開いた

事業創出や市場開拓 支援

発足式で、阪口雄次会長は「新しいビジネスチャンスにつなげるべく活躍してほしい」と隊員たちを激励。同隊の内藤克敏隊長(府電気工事工業協同組合理事長)が「力強い京都の中小企業の集まりをまとめ、若手の力を発揮したい」と決

意表明した。

隊のメンバーは、京都シール印刷工業協同組合の山田裕彦理事長や、京都コンピューターシステム事業協同組合の桂田佳代子理事長ら9人。各組合のニーズを集約し、業界の枠を超えた新規事業や業態転換に取り組む。

中央会は昨年7月、コロナ禍に対応した対策委員会を立ち上げ、中小企業の経営課題を議論してきた。今年2月には組合や傘下企業で連携を深めて苦境の脱却を目指す「中小企業組合助け合い」推進宣言」を採択した。(今口規子)